

# 私たちは核兵器を持たない!!

最近、北朝鮮の核実験以来、政府要人の麻生太郎外相、中川昭一自民党政調会長などから「核兵器保有についても議論すべき!」との発言がなされています。この発言に対して、言論の自由から考えて当然という意見が市民の世論一部にもあるようです。このような議論が行なわれることに、私たちは大きな危惧を感じます。そして、北朝鮮の核保有に強く抗議すると共に、このような動きが日本と世界の平和に対する逆流として、それらの発言に強く反対します。また、あらためて「私たちは核兵器を持たない」こと、「世界から核兵器を廃絶する」ことを決意したいと思います!!

61年前、1945年8月15日の日本の敗戦!それ以前8月6日、9日の広島・長崎への原爆投下!この30万人以上の原爆犠牲者を始め、300万人の日本人と2,000万人のアジア人を犠牲にしたあの戦争!此処に学んで私たちは「不戦の誓い」を立てました。その後、アメリカによるビキニでの世界最初の水爆実験によって、安全海域で操業中であつた日本のマグロ漁船第五福竜丸に死の灰降下事件が起こり、久保山愛吉さん始め多数の犠牲者を出しました!

この歴史の教訓から私たちが学んだことが「核兵器廃絶」です。そして、この「核兵器廃絶」を人類生存の共通の願いとして、全世界に呼びかけたのが「ラッセル・アインシュタイン宣言」(1955年7月9日)です。

日本は唯一の被爆国として、今、私達に求められるのは「核兵器を持たない国、日本!」を宣言し、これを世界に広めることです!核兵器を持つかどうかを議論することは核抑止力による安全保障が成り立ち得るとする誤った考えへの傾斜であり、核抑止論の行きつく先は核による人類の滅亡以外の何ものでもないことを、61年前の敗戦の教訓を思い起こし、再度、心に刻まなければなりません!!

これまで、日本は核の軍事利用に強く反対し、戦争放棄の平和憲法と同時に非核三原則「核兵器をもたず、つくらず、もちこませず」を基本原則として、国際社会に対して日本の核に対する姿勢を明確にしてきました。この核の平和利用に徹する日本の姿勢が国際社会でも理解されつつある中で、この度の日本政府・与党の要人による日本の核武装をも議論の対象とし、これまで積み上げられてきた核兵器廃絶の国民世論を否定することを明確に意図した「核兵器保有についても議論すべき!」との発言は絶対に許すことが出来ません!!

麻生・中川発言に強く抗議すると共に、二度とこのような発言を許さないことを私たちは宣言したいと考えます!!

2006年11月16日

日本科学者会議北海道支部常任幹事会  
エネルギー・環境を考える会